



全労生 前副議長

高倉 明

の半分の34年間にわたる幸せを生み出すものとして、労組専従役員として生産性運動推進の一端を担えたことは大変光栄であった。

生産性運動は、人間

尊重の精神のもと、「生産性運動三原則」を指針とした労使の厚い信頼と協力が運動推進の

が、社会正義や社会・

経済の進歩を促進する

ための政策を確立する

上で決定的に重要な役

割を担っている。今年、

8年ぶりに政労使会議が開催されたが、今後は喫緊の課題である。私は、国際労働運動も継続して政労使・三

(Social Dialogue) ことを切に希望する。環境は最悪で連合はじ

今年春闘では、大め多くの産別・労組が幅な賃上げ回答の引き

質上げ要求を断念し

出しが続いているが、

た。しかし、企業の再

競争力の維持・向上に

ある日本の賃金水準

「人」であり、その「人」ないと確信している。がる月例賃金・月給に意欲や活力を持たない。また、「成果配分は対して実施されるべき

維持されず、企業の発展・成長は望めない、単年度の業績をベース

との信念のもとで、賃上げ要求に踏み切り厳

しい交渉を経てベア

への配分とは性格が異

なり、日々の生活を安

心して安定的に過ごす

欲・活力の向上につな

有意義な社会対話継続を

厳しい時の「人への

ことを考えれば、生産

性向上などへの成果配

分は、働くものが最重

要視し、安心感につな